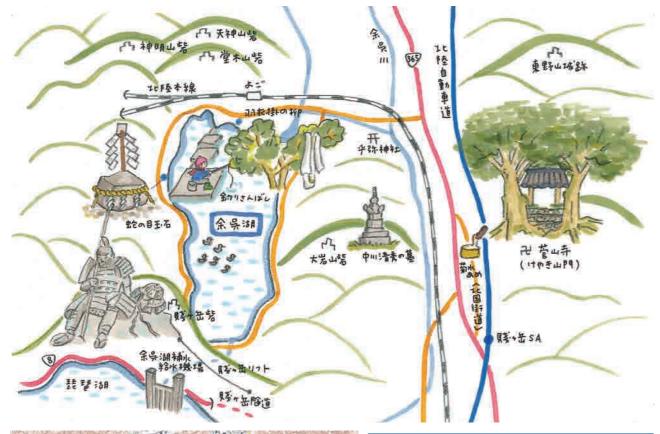
周辺の みどころ

余呉湖周辺の丘陵には賤ヶ岳の合戦に関わる砦や 城跡が多く残っている。JR北陸線余呉駅を起点に余 呉湖を時計回りで一巡りするようにして丘陵上を行 くと、大岩山砦跡、賤ヶ岳城跡、茂山砦跡、神明山 砦跡、そして堂木山砦跡を踏破できる。このうち賤ヶ 岳砦跡は遺構の残り具合は良好ではないが、そこか ら北を眺めれば余呉湖、そして玄蕃尾城方面を一望 でき、南を眺めると手前に虎姫山城跡、その向こう に小谷城跡や琵琶湖を見ることができ、その眺望は ぜひ訪れて楽しみたい。



賤ヶ岳砦跡





[アクセス]

● JR北陸線余呉駅下車、南へ約5分で余呉湖畔にた

もっと詳しく知りたいひとへの案内

- ●余呉町誌編さん委員会『余呉町誌』
- ●余呉町教育委員会『余呉の民話』
- ●滋賀県教育委員会『近江城郭探訪 合戦の舞台を歩く』

伊香郡余呉町川並・下余呉 木之本町飯浦



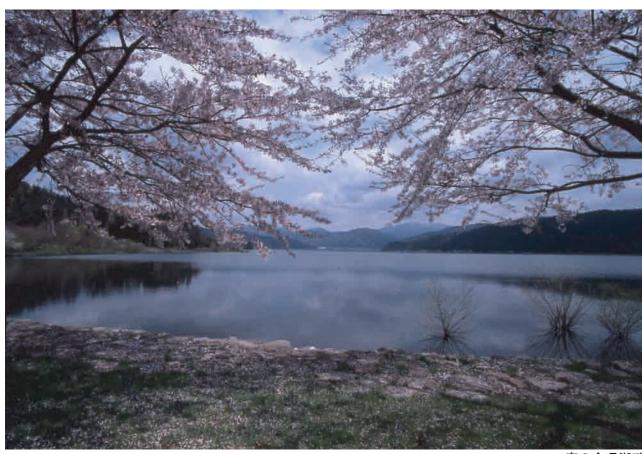
賤ヶ岳山系からの余呉湖

余呉湖は琵琶湖の内湖を除くと琵琶湖に次いで県下 2番目の規模の湖である。天女伝説や菊石姫伝説など、 水に関わる伝説が色濃く残り、賤ヶ岳の合戦の歴史舞 台となるなど、いにしえから人との関わりが濃厚な湖 である。

その湖面は鏡湖と称されるほどに美しく、三方を山 に囲まれた緑豊かな景観は多くの人を和ませてくれ、 ワカサギ釣りで賑わう湖辺の光景は湖北の冬の風物詩 として親しまれている。

また、現在の余呉湖は治水ダムとしての機能も備えて、 その姿には自然と人の英知の共生を見ることができる。





春の余呉湖畔

余呉湖

所在地 伊香郡余呉町川並・下余呉 木之本町飯浦

余呉湖 その姿

余呉湖は奥琵琶湖の木之本町飯浦の北側、 賤ヶ岳の山並みを隔てた位置にある湖で、そ の面積は1.75平方kmで、周囲約6kmの断層湖 である。水面の標高は132mにあり、琵琶湖 の水位よりも約49m高い位置にある。

余呉湖の誕生と変遷には、柳ヶ瀬断層の活動による低地の沈降が関わっているようだが、その詳細は不明な点が多い。余呉湖辺や湖岸近くの水田では多くの埋没林が見つかっており、その年代は約8,000年前、6,500年前、3,200年前、そして2,000年前頃のものだという。これらの状況からは余呉湖の水域の変動が推察され、現在よりもその水域が狭い時期があったと見られている。

余呉湖 その歴史と伝説

余呉湖の北側には約3,000年前の埋没林が 発見された余呉湖底遺跡がある。この埋没林 の根株周辺からはクルミ、トチ、ハスの実な どとともに縄文時代晩期の土器が出土しており、余呉湖と人との関わりの端緒をここに見ることができる。

『帝王編年記』養老7年(723年)条には余 呉湖を舞台とした伊香刀美と天女をめぐる白 鳥伝説(羽衣伝説)が見られ、余呉湖北岸に ある柳の大木がその伝説にちなんだ「天女の 衣掛柳」と呼ばれている。また「蛇の目玉石」 は雨乞いに関する菊石姫伝説を今に伝える石 として守り祀られている。

天正11年(1583年)。余呉湖をめぐる山間で、 織田信長の後継を争う羽柴秀吉と柴田勝家に よる賤ヶ岳の合戦が繰り広げられた。勝家は 余呉湖の北方約6kmに位置する柳ヶ瀬山上に 玄蕃尾城を築いて本陣を築き、秀吉は木之本 に本陣を構えた。両軍は余呉湖周辺に数多く の砦や城を築いて相対峙し、その後の歴史を 左右する争いを繰り広げた。

それらの砦や城の実態は、今も山中に残る 堀や土塁の遺構から垣間見ることができ、東



東野山からの余呉湖遠景



■ 天女の衣掛柳

野山城跡付近や賤ヶ岳城跡からは美しい余呉湖の遠景を望むことができる。

余呉湖 その湖水との共生

余呉湖の湖水は余呉川からの導水路と、木 之本町飯浦からの隧道を使って導かれた琵琶 湖からの水を湛える。そしてその湖水は余呉 湖放水路を通じて排出され、姉川以北の湖北 の田野を潤している。

しかし、三方を山に囲まれた閉塞した環境

にあるこの湖は、かつてこれらの導放水路が整備される以前、増水時には周囲一帯が水没し、しばしば大きな被害を及ぼしてきた。余 呉湖周辺集落における近代の歴史は、いかに 水を制御し共生するかということに挑み続け た歴史であった。

現在、余呉湖は治水ダムとしての機能も備えており、その姿には自然と人の英知の共生を見ることができる。